

人権センターだより

電話 82-0076

ファクス 82-0110

Vol. 148



第2回ふれあい人権講座

「カンパニユラの夢」

DVDドラマ鑑賞

「8050問題を考える」

8050問題は、社会の超高齢化と「(いわゆる)引きこもり」の増加により社会問題として注目されています。80は80歳代の親で、50は50歳代の子を意味しています。高齢になった親と中年の引きこもりの子で構成される世帯に起こりがちな困難のことです。引きこもりは、以前は子どもや若者の問題として捉えられていました。しかし長期化することが多く、支えてきた親が次第に齢をとり、世帯収入の減、健康不安、病气、介護などの要素が重なってきます。そしてさらに困難を抱えた家庭に陥り

ます。引きこもりの原因は様々なので、一様な解消方法があるわけではありません。日本での引きこもりの方は近く100万人を超えると見られていて、長寿化に伴い最近では9060問題とも呼ばれます。

ドラマは高齢夫婦と、職場でのつまづきがもとで引きこもりになった中年の子との世帯が舞台。近所の引きこもり経験のある男性が経営する喫茶店で老母と若い母が出会ったことをきっかけに、地域でこうした困難を持つ家庭を支える機運が生まれ、引きこもっていた子がもう一度、外の社会に向けて歩き始めます。一つの解消策として「地域共生社会」の進展を提示しています。引きこもりの早期に子の背中を押せる人、偏見を持たず、その家庭に関わっていき人：。

誰かを支えることは大変ですが、自分もどこかで誰かに支えられていくはずですよ。



第3回ふれあい人権講座

「被差別部落から学んだこと」

生徒・保護者・教師との

出会いから

講師 伊田哲朗さん(下石見)

伊田講師は、長らく兵庫県立高校の定時制・普通科で教師をしてこられました。退職後Uターンされ、行政相談委員や人権教育推進員などの行政関係の仕事や多分野での社会奉仕、文化活動に力を注いでおられます。

講座では、兵庫県での教員生活の間に出会った方々、特に被差別部落に関係する方々との出会いと、出来事、そこから感じたこと学んだことをお話されました。すべてのお話が実体験から得た見識であり、私たちが経験として、あるいは、実感として持ち得ていないものが詰まっています。

コロナ禍であり、参加者は多くはありませんでしたが、同じように関わってこられた都市部の在日朝鮮人の方々とのことなども含め、これからも機会をとらえてお話しさせていただきたいと考えています。

【次回予告】

第4回ふれあい人権講座

「ノーソング・ノーライフ」

人生に歌を

日時 7月13日(火)

午後6時～7時30分

会場 日南町人権センター

講師 吉田章一さん

(日南小学校校長)

世界中でたくさんの人々が暮らしの中の喜びを歌を通して分かち合ったり、歌から困難を超える勇気を得たり、痛みを癒されたりしています。「歌のない人生はありえない」と語る吉田講師と人権を支える歌の持つ力を考えます。事前のお申し込みは不要です。お気軽にお越しください。

7月の人権相談・行政相談

日時 7月9日(金)

午前9時～12時

会場 子育て支援センター

☆予約は不要で秘密は固く守られます。お気軽にお越しください。

「出張弁護士なんでも相談」も

同日午後2時～4時まであります。

相談ご希望の方は、人権センターまでお電話ください。

